

# 徳島玉翠会だより

徳島玉翠会

二〇回までの歩み



## 《特集》 徳島玉翠会の20年史

### 徳島玉翠会総会 20年間の経緯

回	開催日(平成)	会場	会長	特記事項
1	5. 5. 15	阿波観光ホテル	初代 松浦 健司 (26年卒)	高松高校創立100周年
2	6. 5. 21			当時の思い出を掲載(本誌P14)
3	7. 5. 20			
4	8. 11. 10	ホテルメント徳島	松浦 健司 (26年卒)	徳島玉翠会だより第1号発行。総会を秋に移行。
5	9. 10. 19			第2号発行。
6	10. 11. 8			第3号発行。
7	11. 11. 14			第4号発行。
8	12. 11. 19		2代 磯部 淳一 (29年卒)	第5号発行。
9	13. 12. 8	グランドエクス 鳴門	3代	当時の思い出を掲載(本誌P15)
10	14. 11. 17	ホテルメント徳島	渡邊 謙 (33年卒)	第6号発行。
11	16. 11. 6			15年度は総会を行わなかった。第7号発行。(16. 1・20)
12	18. 1. 7	ホテルグランドパレス徳島	4代 太田 房雄 (36年卒)	総会誌(会報第1号)発行。総会を1月に移行。
13	19. 1. 6			会報第2号発行。
14	20. 1. 5			会報第3号発行。
15	21. 1. 10		会報第4号発行。	
16	22. 1. 31		5代 長尾 哲見 (44年卒)	会報第5号発行。
17	23. 1. 30			会報第6号発行。
18	24. 1. 29			会報第7号発行。
				次年度に合同総会とする。 臨時徳島玉翠会だより発行。 (24. 11・17)
19・20 合同	25. 6. 30	ホテルグランドパレス徳島		20周年記念総会誌発行。総会を6月に移行。

### 歴代会長時代の各総会等の紹介

初代松浦健司会長 平成5～11年度 P10	2代磯部淳一会長 平成12年度 P11	3代渡邊 謙会長 平成13～16年度 P11	4代太田房雄会長 平成17～20年度 P12	5代長尾哲見会長 平成21～25年度 P13
-----------------------------	---------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

徳島玉翠会総会 第1回（平成5年度）～第7回（平成11年度）

徳島玉翠会誕生！  
（平成5年5月15日）

平成5年、香川県立高松高等学校の創立百周年を迎え、一世紀の伝統を次の世紀に引き継ぎ母校が益々発展することを願って、創立百周年記念行事が2月に代議員総会で可決された。左記はその趣意書である。この後、徳島玉翠会は東京、京阪神（のちの関西）、岡山玉翠会に続く第四支部として産声をあげる。生みの親は大正12年卒の井口貞夫氏、母校創立百周年結成大会に合わせたいと諸準備にご尽力いただいたのは、阿部成夫（事務局）、長尾哲見、水口裕之、森下聖史四氏他である。初代松浦健司会長、岩井武子・磯部淳一副会長で発会式を持つ。

「徳島玉翠会だより」第1号  
（平成8年9月発行）

第4回総会（平成8年11月）より開催が秋に移行する。本部9月発行の「玉翠会報」には「金も力も暇もない面々が集まったの共同謀議、せめて本部より先に創刊号を会員に読んでいただきたい。」と松浦会長が記している。この創刊号の題字は磯部淳一副会長（のちの2代会長）が書かれた。表紙には前年度第3回総会集合写真が掲載されている。4頁中1頁は会員名簿が記載され、過去総会出席者に※印がついている号もある。出席者増を願った策であろう。第5回総会は高松から6名もの来賓を仰ぎ、2名の徳大医学部生も出席に大喜びとある。平成10年4月明石海峡大橋が開通し、第6回総会は関西玉翠会からも2名の来賓が駆けつけてくださった。第7回は岡山の総会と開催日が重なるが先生方が手分けして高松高校から出席くださった。

香川県立高松高等学校  
創立百周年記念行事等について 趣意書

会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃から、玉翠会の活動にご理解、ご協力をいただき、感謝いたしております。本校は、香川県立高松高等学校として明治二十六年に高松市五番丁より、また、進徳女学校として明治二十四年に高松市天神前に創立せられ、その後、それぞれ香川県立高松中学校、香川県立高松高等学校となり、さらに昭和二四年に両校を統合して今日の香川県立高松高等学校と称せられて、百年の星霜を閲しました。この間、四方余名の入学者が、この学校において、その青春期に心身を磨き、真理の探求に努めたのでありますが、その足跡を尋ね、さらに新たな未来への発展を期して、ここに創立百周年を記念することは、誠に喜ばしいこととあります。

本校創立以来の百年は、わが国がようやく近代国家としての体制を整え、やがて列強に互して争うとする道程から、次第に世界大戦に突入し、幾多の苦難を経て、戦後の復興と繁栄を迎える時期に当たります。この時代に、本校を支えたものは、至誠一貫と、いい良妻賢母といひ、好学進取、自主独立といってきたものでありますが、そこで変わらぬものは、中等教育界において名門としての地位と幾多のすぐれた人物を輩出してきたこととあります。これは、学校を指導された歴代の校長、旧職員、ならびに関係者多数の方々の努力と、純真に道を求めた生徒とが一体となって高邁スビリットともいふべき伝統を移すつてきたところによるのであります。

人生はいつも青春であるといわれます。とりわけ、その荒々しい矜持と燃焼の時期をふりかえり、それを懐かしむ年として自分を確かめてみたものであります。これに、次のような企画が進められておられ、代議員の方々を中心に会員諸兄姉のご理解とご賛同を求めています。ここに、実行委員会を代表し、母校の創立百周年を祝すとともに将来に向けて母校の伝統が新しい力をえて発展していくことを期待して、会員諸兄姉の積極的なご参加をお願いします。平成五年二月吉日

玉翠会 会員各位  
PTA 会員各位

香川県立高松高等学校 創立百周年記念行事実行委員会  
玉翠会会長 大西 潤甫  
PTA会長 国東 照美  
学校長 杉岡 保之

1) 徳島玉翠会だより（第1号） 1996年（平成8年）9月発行



第3回 徳島玉翠会総会 平成7年5月20日 於 阿波観光ホテル クワムラ写真館

創刊のごあいさつ

徳島玉翠会 会長 松浦健司

早いもので、というべきか、やっと、というべきか、高松高校創立百周年の年を契機に「徳島玉翠会」が生まれて三年の歳月が流れました。今秋、第四回の総会を開く前に、念願であり課題でもあった会報第一号を発刊し、高松中学、高松高女、高松高校の同窓の皆様のもとにお届けできますことは、無上の喜びであります。

「ごあいさつをお寄せくださいました母校の松橋校長先生、玉翠会の大西会長にお礼を申し上げます。会報発刊のために多大のご尽力を賜った諸氏にも感謝します。

座右の銘というほどのものではありませんが、私の好きなことばに「未半（いまだななば）」というのがあります。本当は「未半」と書くのですが、私なりに何事をするにも「もう後少々」でなく「まだ半分にも達していない」といふ聞かせておきます。

徳島玉翠会も過去三回開いた総会で、何十人かの同窓の方々が堅いきずなで結ばれました。しかし、当面する課題は山ほどあり、発足から三年たつて会報を出したくらいでは、道半ばどころか、山登りからうならやっとなら山口にたどりついたか、せいぜい第一歩を踏み出したに過ぎません。

①徳島県内在住の同窓の皆さまの把握の方法 ②組織、財政の強化 ③そのために、会費制会員とするのか、これまでどおり総会参加者の会費だけで賄うのか ④総会以外の親睦行事の必要性 ⑤会報の発行回数の検討……など、一つひとつをクリアして「半ば」に達したといえましようか。

創刊の言葉にふさわしくない堅苦しいことを書きました。徳島玉翠会の皆さんが、いっどこで会って兄弟、姉妹のように気軽に、親密に話し合い、交流できるようにする日、つまり「半ばに至ったといえる日」の到来の近いことを祈ってやみません。

題字 磯部淳一氏（徳島玉翠会副会長）





徳島玉翠会総会 第16回 (平成21年度) ~ 第19・20回合同 (平成25年度)



第16回徳島玉翠会総会

(平成22年1月31日)

第16回徳島玉翠会総会

(平成22年1月開催)

平成21年度より、長尾哲見氏が太田前会長から引き継ぎ5代会長に就任する。中村芳正、牛川務、香川典子、寺嶋吉保氏の四副会長と坂口英則監事、岡澤恵美子氏他7名の幹事の総勢13名の役員でスタート。前会長からの総会誌も引き継ぎ、第16~18回を発行した。毎回送付くださる「会員だより」は人手不足の事務局

の励みになる。会誌印刷を外注することでこの問題を解決できたのは会員皆様からの年会費及び会誌の広告料等のご支援のお蔭はもとより、先代関係者による経費削減のご努力の賜物である。HPも第16回総会時に新たに公開し、左記は第17回総会時に更新したトップページである。できるだけ早急に新HPを作成する予定である。URL:<http://www.pikara.ne.jp/toku-gyokusui>

20周年記念総会の開催を決定

平成24年度は臨時徳島玉翠会だよりを発行し、移行措置として平成24年度総会は開催せず、平成25年度は6月に第19・20回合同総会として20周年記念総会を実施することを第18回総会で決定、20年誌を発行する。下記は平成23年度玉翠会報(第32号)支部会だよりから抜粋したものである。



徳島玉翠会のホームページへようこそ!



会長 長尾 哲見 (昭和四十四年卒)



特別講演6回の内容は下記に掲載する。なお20年史の参考資料は編集後記の中に記した。文責 邊見千香

徳島玉翠会は、会員四五〇名ほどで毎年五十名前後の規模で総会を開いています。昨年度の総会は平成二十四年一月二十九日(日)午後一時から五時にホテルグランドパレス徳島を会場として行なわれました。高松の本部からは、玉翠会の副会長のお二人・脇和子様(昭十九卒)と常谷克彦様(昭三十八卒)、高松高校からのお二人・教頭の柴田節先生と野球部監督の馬場博史先生、各支部からお二人・岡山玉翠会会長の河野一郎様(昭二十四卒)、関西玉翠会副会長の田島朋子様(昭四十九卒)にご来賓として参加していただきました。当総会の特色である特別講演は、若いお二人の医師がお話していただきました。総会では、東北震災支援の報告もありました。玉翠会は高校の同窓会であるので、被災者で当県に避難している中学生に対して高校進学支援をしようと考え、教育委員会と把握されている唯一の中学生(福島県から鳴門市内に引越して来た中学生)に進学支援金五万円を手渡し大変喜ばれました。また、来年の母校創立二〇周年と徳島玉翠会創立二十周年を機にこれまで積み立ててきた寄付金を母校に徳島玉翠会として百万円の寄付をさせて頂く事も総会で了承されました。参加者の最年長である松下和朋さん(昭十四卒)の乾杯で、懇親会が始まり、全員が近況報告をする共に楽しいクイズも行ないました。家族同伴での参加もしていますが、平成の卒業生が一名のみの参加で、若い方の参加が少ない事が悩みます。来年は、高松高校創立二〇年祝賀会が九月にありますが、徳島玉翠会も創立二十周年を迎え記念総会を来年六月三十日に開催予定です。現在、役員会で楽しい内容を鋭意検討中です。県外の同窓の皆様もご都合がございましたら是非とも多数ご参加ください。

総会	演題	演者(所属・高松高校卒年)
第13回	加ト吉の特定保健用食品について	竹安宏匡(加ト吉技術調査室長)
第14回	お口の病気と口腔外科	伊賀弘起(徳島大学口腔保健学科教授・51年卒)
同上	角膜炎の扱い方	塩田 洋(視覚病態学分野教授・37年卒)
第15回	木造住宅の耐震性について	林田芳幸(株式会社光建設第一営業部)
同上	連歌のたのしみ	高城修三(芥川賞受賞作家・41年卒)
第16回	「今だから話せる大塚国際美術館創設裏話」西洋美術を十倍楽しむ法	平田雅男(大塚美術館学芸室室長)
第17回	鳥居龍蔵と台湾	石尾和仁(鳥居龍蔵記念博物館専門学芸員)
第18回	糖尿病最前線~血糖値が気になる人も、気にならない人も~	吉田守美子(徳島大学大学院生体情報内科学助教・平7年卒)
同上	高血圧、自分ではかる、自分でおす~家庭血圧測定のすすめ~	木村建彦(川島病院循環器科・58年卒)

第13~18回総会の特別講演